

目次 contents

- P1 ■第53回シラコバト賞
■令和3年度シラコバト賞表彰式
- P2 ■コミュニティ活動実践者の御紹介
- P3 ■市町村コミュニティ協議会の取組
- P4 ■会員紹介

第53回 シラコバト賞

日頃、身近なところで、住みよい地域社会の実現のために、多くの方々が積極的な実践活動を続けています。

彩の国コミュニティ協議会では、そうした活動を行う個人及び団体へシラコバト賞を贈呈し、その活動と功績を顕彰しています。

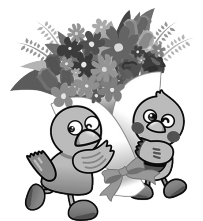
令和3年度の受賞者は、個人142、団体44の186件でした。

令和3年度シラコバト賞表彰式

11月16日(火)に埼玉会館(さいたま市)にて「令和3年度埼玉県知事表彰・シラコバト賞 表彰式」を新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら開催しました。

登壇した受賞者代表の4名に、当協議会会長 大野元裕 埼玉県知事から賞状、副賞の楯が授与されました。シラコバト賞の表彰と併せて、埼玉県表彰規則による知事表彰(埼玉県知事表彰)も行われました。

登壇していただいた 受賞者・団体を御紹介します



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

心のふれあいを深める活動

ネオポリスふれあいサロン (吉川市)

地域住民の居場所づくりのために、昼食会やレクリエーション等を行い、地域住民の健康づくりや仲間づくりに貢献しています。



健やかな心身を育てる活動

寺西 芳子 氏 (鴻巣市)

食生活改善を中心とした健康づくりボランティア活動を展開しています。地域のニーズに合った活動で、市民からも信頼を得ています。



住みよいふるさとをつくる活動

中島 誠一 氏 (深谷市)

常盤小学校の児童の下校時に交通安全・防犯活動として、見守り活動を継続して行い、地域の安心安全に貢献しています。



郷土を知り、郷土を想う活動

富澤 功生 氏 (坂戸市)

市無形民俗文化財「北浅羽の獅子舞」を地域の子供たちに指導する等、長年にわたり指導者として伝統芸能の継承に尽力しています。



埼玉未来大学（学長：埼玉県知事 大野元裕）は、シニアの「学び直し」と「再チャレンジ」を応援する場として、令和2年に開校しました。

今回は、埼玉未来大学の卒業生が現在取り組んでいるコミュニティ活動を御紹介します。



特定非営利活動法人おもしろ工房まなび倶楽部 ～令和2年度地域創造科アクティブコース卒業生～

伊藤 智紀 氏

私たち『おもしろ工房まなび倶楽部』は、「おもしろいをもっと身近に、日常をもっと楽しく」をモットーに令和3年に立ち上げたきたてほやほやの倶楽部です。

シニアの方々に学びの場を提供し、仲間づくりと自身の「居場所と出番」の確立を行い、地域社会の活性化を図る活動や防災に対する意識を高める活動などを行っています。

立ち上げのきっかけは、惰性的なモヤモヤとした生活の中、埼玉未来大学アクティブコースを受講したことです。NPO法人の設立から運営、実際の活動事例などを学び、背中を押された気がしました。

これまでに、「夏休みチャレンジ企画」、「初心者料理教室」や「終活セミナー」などを行いましたが、反省点もありました。

これからも反省を教訓として、色々なイベントを開催しますので、是非、皆さんもご参加ください。多くの方のご参加、お待ちしております。



▲セミナーの様子



▲初心者料理教室

コミュニティサロンみんなの夢ハウス

～令和2年度地域創造科コミュニティカフェ開設講座卒業生～

五味 滋子 氏



▲オープンイベント



▲子供工作教室



▲園芸倶楽部



▲まちの保健室

私は、現在、さいたま市浦和区でコミュニティサロン「みんなの夢ハウス」を主宰しています。公民館や自治会館がない地域に世代を超えて地域をつなぐ交流拠点を作ろうと、地域の有志で令和3年5月に立ち上げました。自宅の一部を木曜日から土曜日の週3日間、地域の方たちに開放しています。

オープンイベントでマルシェやワークショップを開催したり、夏休みには子供工作教室を行ったりしています。今は、手仕事、園芸、健康マージャン、俳句の4つの倶楽部が定期的に活動しています。地域の高齢者が安心して暮らせるように、まちの保健室と夢体操倶楽部の活動もそれぞれ隔週で行っています。まちの保健室は、医療職の方たちで構成されたNPO法人ReMindの協力で行われています。

様々な活動を、友達の家のリビングでくつろぎながらといった感覚で行っています。春には男性会員を増やそうと、グラウンド・ゴルフ倶楽部も立ち上げる予定です。老若男女問わず、興味がある人はぜひ参加してください。

【埼玉未来大学の概要】

埼玉未来大学には、元気に自立していきいきと活躍するための知識や習慣が学べる「ライフデザイン科」と、地域の担い手を育成する「地域創造科」があります。

このうち、地域創造科には、人生のセカンドステージで社会貢献や地域課題の解決に取り組む方のために、ボランティア団体、NPO等の立ち上げと運営を学ぶ「アクティブコース」、ソーシャルビジネスの起業と経営を学ぶ「地域ビジネスコース」があります。また、「コミュニティカフェ開設講座」など興味に合わせて選べる選択講座（後期開講予定）も用意しています。

令和4年度前期課程（令和4年4月22日 開講予定）受講生募集中

- ①ライフデザイン科（春日部学園、川越学園、川口学園、熊谷学園、伊奈学園）
- ②地域創造科アクティブコース（県民活動総合センター）
- 地域創造科地域ビジネスコース（県民活動総合センター）

※募集締切 令和4年3月25日（金）必着

詳しくは、公益財団法人いきいき埼玉ホームページをご覧ください

<https://www.iki-iki-saitama.jp/mirai/>





市町村コミュニティ協議会の取組

彩の国コミュニティ協議会では、市町村協議会が行う共助社会づくり事業に対して助成をしています。今年度の助成事業について、一部御紹介します。

ラジオ体操で共助社会づくり事業(三芳町区長会)

三芳町区長会では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で地域活動が停滞しているなか、コミュニティの活性化につなげるため、「みんなでラジオ体操!」と題して、ラジオ体操で共助社会づくり事業を開催しました。

ポケットラジオとオリジナルカードを配布し、毎朝のラジオ体操の放送に合わせて近所の公園等に出かけ、地域に顔見知りを作ることで、地域住民同士の交流・世代間交流の機会づくりや地域デビューを促しました。

また、10月には三芳町スポーツ推進委員を講師として招き、ラジオ体操講習会を開催し、ポイント解説を交えながら子どもから大人まで約180名で体を動かしました。

参加者からは「人との出会いのきっかけになった」、「孫と一緒にラジオ体操ができた」などの声をいただきました。

三芳町区長会では、今後もコミュニティの活性化につながる事業を実施していきます。



ひまわりの里づくり(滑川町コミュニティづくり運動推進協議会)

滑川町コミュニティづくり運動推進協議会は住民の自治と連帯意識を高め、文化的、創造的な社会を築くため、地域におけるコミュニティ活動を推進することを目的として設立されました。現在はコミュニティ活動推進事業として、町内の美化活動や地域の交流を深める活動を行う団体に対し支援を行っています。

令和3年度の秋には「ひまわりの里づくり」活動に対し、パンジー・ピオラの苗の配布を行いました。「ひまわりの里づくり」活動は中学生と地域が連携して町内にひまわりの種を植える活動です。ひまわりの咲き終わった後の花壇などに自治会、老人クラブの協力のもと15団体において500株のパンジー・ピオラの植栽を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響でマスク着用、人と人との距離を取るなど感染症対策を講じた形での活動となりました。今後も新型コロナウイルス感染症予防と地域活動の両立を図りながらコミュニティ活動を推進していきたいと思えます。



花いっぱい運動(長瀬町コミュニティ協議会)

長瀬町コミュニティ協議会は昭和55年に設立されて以来、住みよい地域社会を創る事を目的に様々なコミュニティ活動に取り組んでおりますが、その一つに環境美化活動があります。

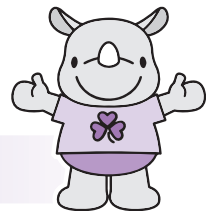
環境美化活動は当協議会の生活環境部会が中心となり、宝登山神社前ロータリーにおいて年に2回、花の植栽を行っています。

令和3年度は6月と11月に植栽を行い、メランポジウム、マリーゴールド、ピオラを計500株以上植えることができました。

長瀬町は県内外から大勢の観光客が訪れる場所でもありますので、地域住民をはじめ幅広い方々に楽しんでいただき、心の癒やしになればとの思いで、花の色や種類等を工夫しながら、毎回の活動に取り組んでいます。

この活動が、明るく住みよい地域づくりにつながるよう、これからも皆で力を合わせて取り組んで参ります。





毎日新聞さいたま支局

弊紙は現存する日刊紙として最も長い歴史があり、2月に創刊150年を迎えました。県内では1927年に浦和支局（旧名称）が開設され、100年近く、埼玉のできごとを伝えてきました。

地域報道に注力する一方で、さまざまな文化、スポーツ、地域貢献事業を行っています。選抜高校野球や毎日書道展といった全国的なイベントはもちろん、他団体と連携した埼玉独自の取り組みも多くあります。

例えば、主に中学3年生を対象にした進学相談会「埼玉私学フェア」は約35年続いています。埼玉県私立中学高等学校協会と実施し、来場者は例年約1万人。20、21年は新型コロナウイルス感染防止のため、インターネットでの事前予約制で開催しました（21年は一部会場で中止）。

不定期ですが、大小の講演会も行っています。21年4月にはNHKさいたま放送局と共催で、渋沢栄一と大河ドラマの魅力を伝えるトークショーを実施しました。コロナの状況を見据えつつ、報道と事業を通じて地域と人々の輪を広げていくつもりです。



▲『青天を衝け』出演者と専門家が渋沢栄一の魅力を語りあったトークショー



▲21年夏の私学フェア川越展の相談風景

埼玉県信用農業協同組合連合会

当会は、昭和23年に埼玉県を事業地域として設立以降、埼玉県農業と県内JA並びに地域社会の発展を目指す農業専門金融機関として歩んでおります。

農業の発展を目的に県内の小学校へ食農教育本（教材本）を贈呈し、食・環境への理解を深める活動のほか、水資源や豊かな農地を次世代に引き継ぐため、森林保護活動団体への協力や森林整備に係る活動費の助成などを通じた地域貢献活動へも取り組んでおります。

また、コロナ禍においては、様々な活動が制限される中、農業者への支援を目的として、「JAグループさいたま農畜産物オンライン商談会」を開催し、魅力ある埼玉県産農畜産物の販路拡大に向けて取り組んで参りました。

今後も埼玉県の農業及び地域経済の発展に寄与できるよう様々な社会貢献活動へ取り組んで参ります。



▲食農教育本



▲オンライン商談会

国立大学法人 埼玉大学

埼玉大学は、教養、経済、教育、理、工の5学部と人文社会科学、教育学、理工学の3つの研究科を擁する埼玉県内唯一の国立大学として、さいたま市桜区にキャンパスを構えています。

様々な分野の学問が1つのキャンパスに集まり、多様性豊かな環境で育まれた埼玉大学の「知」。その一端に触れていたく場として、埼玉大学では地域の方々を対象とした公開講座を開催しております。中でも、毎年春～秋にかけて開催される「埼玉大学連続市民講座」は、例年多くの方々にご参加いただいております。2022年度で13回目の開催となります。2021年度は「危機の時代—持続可能な世界を目指して—」をテーマに、震災や感染症等について本学教員が解説するとともに、考え得る処方箋について考察しました。

2022年度も魅力的な公開講座をお届けいたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。



▲2022年度公開講座は、随時こちらのページでご案内いたします